

2024年4月24日

第37回「京都美術文化賞」受賞者決定について

このたび、公益財団法人 中信美術奨励基金（理事長 白波瀬 誠）では、財団の顕彰事業である第37回「京都美術文化賞」の受賞者を決定しましたのでお知らせいたします。

記

1. 第37回「京都美術文化賞」受賞者・受賞理由

猪熊 佳子（いのくま けいこ・65歳）日本画

大胆な構図と独自の筆致で自然の息吹と温かみを表現している。

吉岡 俊直（よしおか としなお・51歳）版画

アナログとデジタルの融合をテーマとした独自の創作による活躍が目覚ましい。

草間 喆雄（くさま てつお・78歳）ファイバーアート

「ファイバーアート」の第一人者として繊維を用いた新しい作品を生み出し続けている。

2. 贈呈式

日時 2024年5月27日（月）午後2時

会場 ウェスティン都ホテル京都 葵殿

京都市東山区三条けあげ TEL 075（771）7111

3. 京都美術文化賞について

美術の創作活動を通じて京都府市民の精神文化向上に多大の功績があった方に対し、「京都美術文化賞」として賞牌と賞金1人金200万円を贈呈し、創作活動を奨励しています。

1988年5月の第1回に始まり、今回で第37回目の贈呈となりました。

（1）選考委員（敬称略）

太田垣 實 （美術評論家）

潮江 宏三 （京都市立芸術大学名誉教授）

篠原 資明 （京都大学名誉教授）

福永 治 （京都国立近代美術館長）

冷泉 為人 （公益財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長）

(2) 受賞記念展の開催

日時 2025年1月(予定)
会場 京都文化博物館

(3) 過去の受賞者(別紙一覧参照)

- ・受賞者総数 111名(今回を含む)
 - 絵画 41名(日本画20名 洋画13名 版画7名 その他1名)
 - 彫刻 13名
 - 工芸 39名(染織13名 陶芸18名 漆芸4名 截金1名
截金ガラス1名 人形1名 ガラス造形1名)
 - その他 18名(写真3名 ファイバーアート5名 マルチメディア
アート1名 現代美術8名 花人1名)

 - ・受賞後の活躍
 - 第1回受賞 秋野不矩氏、1999年度文化勲章受章
 - 第7回受賞 黒崎彰氏、2008年瑞宝中綬章受章
 - 第9回受賞 岩倉寿氏、2003年日本芸術院賞受賞、2006年芸術院
会員
 - 第9回受賞 木村光佑氏、2012年瑞宝中綬章受章
 - 第13回受賞 江里佐代子氏、2002年人間国宝認定(当時史上最年少)
 - 第19回受賞 宮瀬富之氏、2009年日本芸術院賞受賞、2022年芸術
院会員
 - 第24回受賞 森村泰昌氏、2011年紫綬褒章受章
- など、受賞後の活躍はめざましいものがある。

(4) 「京都美術文化賞」の意義

伝統ある京都の芸術を発展させ、京都からすばらしい芸術家を誕生させる刺激となっている。美術関係者からは、この賞の足跡について「京都の優れた芸術が集まり、京都の美術界の流れをあらわしていて意義深い」と評価をいただいております。

4. 公益財団法人 中信美術奨励基金について

京都中央信用金庫の預金量一兆円達成(1986年11月)を記念し、1987年4月1日に設立しました。京都府下における美術の創作活動を奨励し、伝統的文化の継承発展並びに京都府・市民の精神文化向上に寄与することを目的としています。2011年4月1日より公益財団法人に移行しました。2019年京都市芸術振興賞を受賞いたしました。

以上

猪熊 佳子（いのくま けいこ） 日本画 65歳

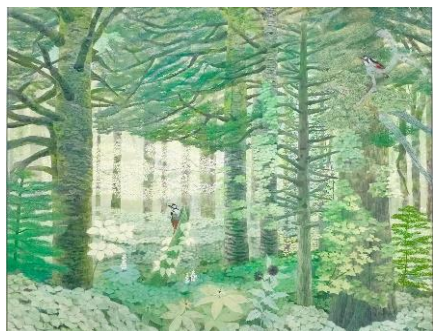
1958年京都府生まれ。1984年京都市立芸術大学大学院修了、買上賞受賞。全国の里山に取材し、静謐な森やそこに住む小さな生き物の命をモチーフに色鮮やかな透明感のある画風で描き出す。景色の描写にとどまらず、独自の筆致で奥行きある光や空気までも絵画表現として成立させ、自然の息吹と温かみを表現する。近年取り組む金箔やプラチナ箔を背景にする作品は独特の空気感を醸し出す。1999年日展文化庁買上げ、2003年日春展外務省買上げ、2017年祇園祭絵はがき一筆箋原画献筆。



展覧会：'84年「日本画三人展」（京都府立文化芸術会館、～'21年）、'91年「両洋の眼 現代の絵画展」（～'96年、'09年）、「第11回山種美術館賞展」（山種美術館／東京、'93年）、'92年「いのち賛歌 京都・日本画100人展」、「第2回菅橋彦大賞展」（倉吉博物館、'02年）、'98年「第1回NEXT展」（高島屋／京都、～'07年）、'10年札幌芸術の森美術館開館20周年記念展「北方神獣」（札幌芸術の森美術館／北海道）、'13年個展（日本橋三越本店／東京、JR 大阪三越伊勢丹／大阪、日本経済新聞社SPACE NIO／東京）、'14年個展（佐藤美術館／東京）、'15年琳派400年記念 現代作家200人による日本画・工芸展「京に生きる 琳派の美」（京都文化博物館、'16年日本橋高島屋／東京）、'16年「創と造2016 現代日本 絵画・工芸展」、'18年個展（高島屋／京都・東京・大阪・神奈川）、'20年個展（そごう／千葉・広島・横浜、池袋西武／東京）、'21年個展（三越本店／東京）など多数。

受賞：'87年「青垣2001年日本画展」佳作賞、'90年「川端龍子賞展」優秀賞、'95年「第13回山種美術館賞展」優秀賞、'98年「第6回京都新聞日本画賞展」大賞（'91年・'92年・'94年・'96年優秀賞）、第14回京都府文化賞奨励賞、'02年京都市芸術新人賞、'06年「第3回東山魁夷記念日経日本画大賞展」入賞、'10年日春展奨励賞、'18年日展特選（'21年同、'23年京都市長賞）など。

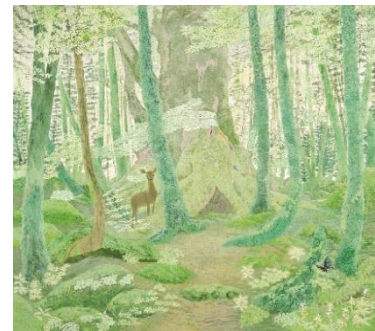
代表作：「風の森」（'19年）、「白い森」（'22年）、「木霊」（'24年）



「風の森」2019年



「白い森」2022年



「木霊」2024年

吉岡 俊直（よしおか としなお） 版画 51歳

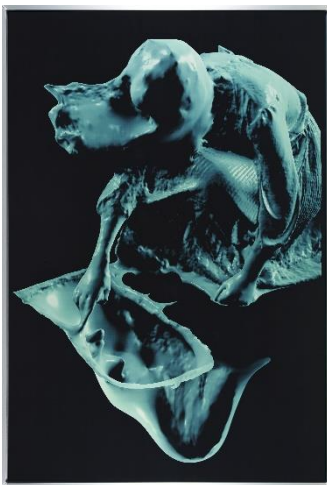
1972年京都府生まれ。1997年京都市立芸術大学大学院修了。在学当時よりコンピュータグラフィックスを使用した版画作品を制作する。ゴムシート、発泡ウレタン、プラスチックなど身近な素材とデジタルテクノロジーとが融合した作品を発表。表現メディアは平面、立体、映像と多岐にわたるが、一貫して「自然の形や振る舞いをデータとして抜き出す」というテーマで制作を続けている。1998年「Factory」（キリンプラザ大阪）、2006年「声 VOICE」（ガレリアフォナルテ／愛知）、2022年「京都版画トリエンナーレ展」（京都市京セラ美術館）、いずれも想像を上回る素材感とスケールでインスタレーションを展開し、新たなデジタルとアナログの融合を作品で実現させている。2015年より京都市立芸術大学（美術科版画専攻）教員。



展覧会：'95年「JACA'95日本ビジュアル・アート展」（伊勢丹美術館／東京、他）、'97年「絵画の方向'97」（大阪府立現代美術センター）、'98年「'98新鋭美術選抜展」（京都市美術館）、'00年「新鋭美術選抜展2000」（京都市美術館）、「大阪トリエンナーレ・コレクション展」（大阪府立現代美術センター）、'01年「VOCA展」（上野の森美術館／東京）、「モノの芸術・メディアのアート」（常葉美術館／静岡）、'04年「現代版画の潮流展」（町田市立国際版画美術館／東京、松本市美術館／長野）、'07年「水のかたち」（茨城県近代美術館）、'08年「MAXI GRAPHICA / Final Destinations」（京都市美術館）、'09年「アート&テクノロジー」（京都工芸繊維大学・美術工芸資料館）、'14年「拡張する地平」（53美術館／中国）、'19年「複眼と対称のノード」（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA）、'22年「第3回京都版画トリエンナーレ2022」（京都市京セラ美術館）など多数。

受賞：'95年「JACA'95日本ビジュアル・アート展」銀賞、「ソニー・デジタル・エンタテインメント・プログラム」最優秀作品賞、「京展」市長賞、'97年「クラコウ国際版画トリエンナーレ」審査員特別賞、'99年「第四回高知国際版画トリエンナーレ展」佳作賞、'06年名古屋市芸術奨励賞、'20年「第11回高知国際版画トリエンナーレ展」佳作賞、'22年「第8回NBCメッシュテックシルクスクリーン国際版画ビエンナーレ展」大賞、「第3回京都版画トリエンナーレ2022」大賞など。

代表作：「全身と指先」（'21年）、「可塑性のある情景〈解放〉」（'18年）、「可塑性のある情景〈理解〉」（'17年）



「全身と指先」2021年



「可塑性のある情景〈解放〉」
2018年 撮影：上原徹



「可塑性のある情景〈理解〉」
2017年 撮影：上原徹

草間 詰雄（くさま てつお）ファイバーアート 78歳

1946年愛媛県生まれ。'69年武蔵野美術大学卒業、京都川島織物勤務。
'73年米国クラムブルックアカデミーオブアート大学院修了。'65年代より海外で始まった新しい繊維造形（Fiber Art）の動きに影響を受け、70年代、米国に渡り新しいFiber Artを学ぶ。以来現在まで京都、岡山において繊維を使用した新しい作品を作り続けている。'75年州立ユタ大学助教授、'89年京都成安女子短期大学教授を歴任。'11年より岡山県立大学名誉教授。



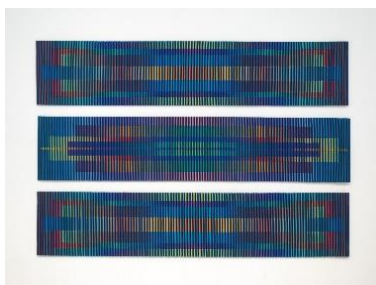
展覧会：'77年「今日の造形〔織〕アメリカと日本展」（京都・東京国立近代美術館）、「第8回国際タペストリービエンナーレ展」（ローザンヌ州立美術館／スイス）、'87年「国際テキスタイルコンペティション '87京都」（国立京都国際会館）、'95年「ジャパニーズスタジオクラフト」（ヴィクトリア&アルバート博物館／英国）、'11年「Fiber Futures: Japan's Textile Pioneers 展」（Japan Society／米国）、'14年「The 8th International Fiber Art Biennale Exhibition」（中国）、'16年「革新の工芸 — “伝統と前衛”、そして現代一展」（東京国立近代美術館工芸館／東京）など多数。

受賞：'76年米国芸術基金（NEA）クラフトマンフェロウシップグラント、'89年芸術選奨文部大臣新人賞（美術部門）、'01年平成13年度文化庁派遣芸術家在外研修員（米国）、'12年「第7回国際ファイバーアートビエンナーレ展」銀賞（中国）、'13年マルセン文化賞、'15年岡山芸術文化賞グランプリ、'22年岡山県文化賞など。'

代表作：泉佐野総合文化センター設置作品・二重織（'96年）、「Horizon」二重織（'21年）岡山県立美術館蔵、「Season's Mirage」コイリング技法（'22年）



泉佐野総合文化センター設置作品
1996年、撮影：柄松稔



「Horizon」2021年、
岡山県立美術館蔵



「Season's Mirage」2022年

京 都 美 術 文 化 賞 受 賞 者

※は故人

第1回(1988年5月)	※秋野 不矩(日本画)	※小牧 源太郎(洋画)	※坪井 明日香(陶芸)
第2回(1989年5月)	※麻田 浩(洋画)	小清水 漸(彫刻)	※伊砂 利彦(染色)
第3回(1990年5月)	※中野 弘彦(日本画)	※三尾 公三(洋画)	※藤平 伸(陶芸)
第4回(1991年5月)	竹内 浩一(日本画)	井田 彪(彫刻)	樂 吉左衛門(直入・陶芸)
第5回(1992年5月)	※吉原 英雄(版画)	※野崎 一良(彫刻)	※南 祥輝(漆芸)
第6回(1993年5月)	※中野 嘉之(日本画)	内田 晴之(彫刻)	面屋 庄甫(人形)
第7回(1994年5月)	※黒崎 彰(版画)	※鈴木 治(陶芸)	※来野 月乙(染色)
第8回(1995年5月)	※下村 良之介(日本画)	番浦 有爾(彫刻)	深見 陶冶(陶芸)
第9回(1996年5月)	※岩倉 寿(日本画)	木村 光佑(版画)	※富樫 実(彫刻)
第10回(1997年5月)	※下保 昭(日本画)	※齋藤 眞成(洋画)	※西嶋 武司(染色)
第11回(1998年5月)	※芝田 耕(洋画)	※山田 光(陶芸)	澁谷 和子(染色)
第12回(1999年5月)	※小嶋 悠司(日本画)	林 康夫(陶芸)	※服部 峻昇(漆芸)
第13回(2000年5月)	※堂本 元次(日本画)	※井上 隆雄(写真)	※江里 佐代子(截金)
第14回(2001年5月)	※渡辺 恂三(洋画)	木代 喜司(彫刻)	福本 繁樹(染色)
第15回(2002年5月)	※岩本 和夫(日本画)	小林 陸一郎(彫刻)	※栗木 達介(陶芸)
第16回(2003年5月)	※森本 勇(洋画)	竹内 三雄(彫刻)	河田 孝郎(染色)
第17回(2004年6月)	※加藤 明子(洋画)	※木田 安彦(版画)	林 秀行(陶芸)
第18回(2005年6月)	吉川 弘(日本画)	柳原 睦夫(陶芸)	望月 玉船(漆芸)
第19回(2006年6月)	西野 陽一(日本画)	宮瀬 富之(彫刻)	上野 真知子(ファイバ-アート)
第20回(2007年6月)	※入江 西一郎(日本画)	平岡 靖弘(洋画)	井隼 慶人(染色)
第21回(2008年6月)	木村 秀樹(版画)	秋山 陽(陶芸)	松本 ヒデオ(陶芸)
第22回(2009年6月)	三橋 遵(染色)	八木 明(陶芸)	甲斐 扶佐義(写真)
第23回(2010年6月)	西久松 吉雄(日本画)	※野村 仁 (マルチメディア・アート)	田島 征彦(染色)
第24回(2011年6月)	山本 容子(版画)	小林 尚美(ファイバ-アート)	森村 泰昌(現代美術)
第25回(2012年5月)	川村 悦子(洋画)	福本 潮子(染色)	伊部 京子(ファイバ-アート)
第26回(2013年5月)	麻田 脩二(染色)	清水 六兵衛(陶芸)	川瀬 敏郎(花人)
第27回(2014年5月)	畠中 光享(日本画)	西野 康造(彫刻)	生田 丹代子(ガラス造形)
第28回(2015年5月)	浅野 均(日本画)	今村 源(彫刻)	久保田 繁雄(ファイバ-アート)
第29回(2016年5月)	森田 りえ子(日本画)	松井 利夫(陶芸)	ヤノベ ケンジ(現代美術)
第30回(2017年5月)	箱崎 睦昌(日本画)	山部 泰司(洋画)	やなぎ みわ(現代美術)
第31回(2018年5月)	小名木 陽一(織)	重松 あゆみ(陶芸)	鈴鹿 芳康(写真造形)
第32回(2019年5月)	名和 晃平(彫刻)	八幡 はるみ(染)	柏原 えつとむ(現代美術)
第33回(2020年5月)	近藤 高弘(陶芸)	山本 茜(截金ガラス)	宮永 愛子(現代美術)
第34回(2021年5月)	大野 俊明(日本画)	児玉 靖枝(洋画)	高橋 匡太(現代美術)
第35回(2022年5月)	伊庭 靖子(洋画)	笹井 史恵(漆芸)	中原 浩大(現代美術)
第36回(2023年5月)	北山 善夫(絵画・彫刻)	岸 映子(陶芸)	西山 美なコ(現代美術)
第37回(2024年5月)	猪熊 佳子(日本画)	吉岡 俊直(版画)	草間喆雄(ファイバ-アート)

絵画 41名(日本画20名 洋画13名 版画7名 その他1名)
 彫刻 13名
 工芸 39名(染織13名 陶芸18名 漆芸4名 截金1名 截金ガラス1名 人形1名 ガラス造形1名)
 その他 18名(写真3名 ファイバ-アート5名 マルチメディアアート1名 花人1名 現代美術8名)
計 111名